

子どもの思考特性に応じた効果的な指導法 - STEP(Students/Teachers Emergenetics Profile)の教育現場への導入 -

河口紅*1・大脇巧己*1・吉田賢史*2
Email: info@sanps.com

*1: 特定非営利活動法人さんぴいす

*2: 早稲田大学高等学院

◎Key Words 指導法, 自己肯定感, 思考特性, エマジェネティクス

1. はじめに

アメリカの脳科学者であり教育学者のゲイル・ブラウニング (Geil Browning) は、脳科学理論に基づき人の思考特性を分析型、ディテール型、社交型、コンセプト型の4つに、行動特性を自己表現性、自己主張性、柔軟性の3つに分類し、人の個性をプロファイリング (心理分析) 技術を用い数値データで表した (図 1)。このデータを活用した人材育成カリキュラム「Emergenetics」は多くの企業に導入され評価を得ている。「STEP (Student/Teacher Emergenetics Profile)」は、Emergenetic を子ども向け教育カリキュラムに改良したもので、開発目的は近年国内でも問題となっている「学校の授業を静かに座って聞けない子ども」や「授業中に、授業以外の他の刺激 (例えば、窓の外の景色や音、教室で飼っている飼育動物の様子など) に興味・関心が移り、授業に集中出来ない子ども」などに対し、教員や保護者が子どもの特性を正しく理解し、適切な指導を実現することで、より良い学習環境を整えることにある。本稿では、STEP を日本の教育現場に導入する意義と、得られる成果について報告をする。

2. Emergenetics (エマジェネティクス) の考え

2.1 人の本質を“見抜く”科学

脳を理解すれば人間関係が見えてくる。人の思考と行動スタイルは、半分は親から受け継いだ遺伝子で、残りの分は人生の中で経験したことにより形成されることがわかってきた。Emergenetics は、遺伝子と経験が語る思考と行動のスタイルをプロファイリング (心理分析) 技術を用い明確にする事で、仕事・教育・家庭など様々な場面での対人関係を飛躍的に向上させる研修プログラムである⁽¹⁾。この Emergenetics を9歳~18歳の児童・生徒を対象に教育用に開発されたプログラムがSTEPである。

2.2 4つの思考特性

脳 PET 検査など検査機器の性能が上がり脳が特定の部位でそれぞれ違った思考活動を行っている事が視覚的にも確認出来るようになり、以前の2分割脳から現在では4分割脳の考え方が主流となりつつある。Emergenetics でも脳を右脳と左脳、抽象 (前頭部) と具象 (後頭部) で分けた4分割で捉え、それぞれ分析型 (左脳/抽象)、ディテール型 (左脳/具象)、社交型

(右脳/具象)、コンセプト型 (右脳/抽象) の4つの思考特性に分類している。これは、脳の優劣を表すものではなく、運動機能にも利き手・利き足があるように脳にも無意識でも上手に使える部位と意識しなければうまく使えない部位があり、これらの関係を数値で表したものである。各思考特性の特徴は下記の通りである。

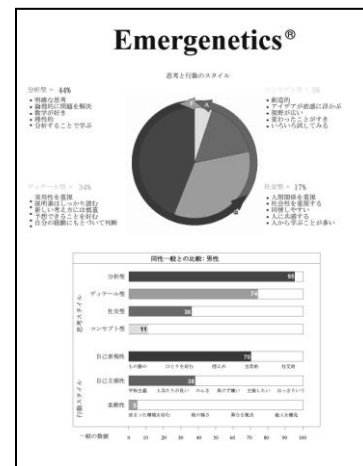


図1 エマジェネティクスプロフィール

【分析型】

明確な思考・論理的に問題を解決・数学が好き・理性的・分析することで学ぶ

【ディテール型】

実用性を重視・説明書はしっかり読む・新しい考え方には慎重・予想できることを好む

【社交型】

人間関係を重視・社会性を重視する・同ししやすい・人に共感する・人から学ぶことが多い

【コンセプト型】

アイデアが直感的に浮かぶ・創造的・視野が広い・いろいろ試してみる

人は皆4つの思考特性全てを持っているが、優位性を示し表面的に顕著に現れるのは23%以上の割合を持つ特性である。多くは2~3の特性に優位性を持つが、中には4つ全てに優位性を持つ人 (オールタイプ) や優位性が1つだけの人 (シングルタイプ) も全体の1%程度ずつ存在する。ただし、思考特性は行動特性と異なりダイレクトに第三者が見ることが出来ないものだ

けに、人間関係を形成する際の障壁となる場合が多い。

2.3 3つの行動特性

人が第一印象を決める場合、多くは内面の思考特性ではなく、外面的な行動特性を見ていることが多い。長く付き合うと、第一印象とかなり変わる人がいるが、それも徐々にその人の内面である思考特性の理解が深まるからである。Emergeneticsでは、行動特性を自己表現性、自己主張性、柔軟性の3つに分類している。

【自己表現性】

他人と世間一般に対して自分の感情を表現する強さ

【自己主張性】

考えや気持ち、信念を表現する強さ

【コンセプト型】

人の考えと行動に合わせる思考の強さ

そして人は ①あまり強く出ないタイプ ②時と場合により強弱を使い分けるタイプ ③表現や思考が表面に強く出るタイプの3種類に分かれるとしている。

3. STEPの教育現場への導入

3.1 問題視されている児童・生徒の特性

今、学校で問題視されている多動や注意散漫（じつと席に座り決められた学習をするのが苦手）な子ども達は、右脳型や抽象型の思考特性に優位性を持ち、行動特性の自己表現や自己主張が強い③タイプの子も達である。逆に、良い子とされてきた子ども達は学校の規則を守り、指示通りの行動を好む左脳型や具象型の思考特性に優位性を持つ子ども達である。その上、児童・生徒を指導する立場の教員も、どちらかと言えば左脳型と具象型に優位性を持つ人が多い。このため、教員と言えども思考特性が真逆である児童・生徒の考え方を的確に理解する事は難しく、適切な指導が行えていないのが現状である。

教育現場では、従来の画一的な講義形式から、習熟度別少人数指導や個別指導へと大きく手法を変えようとの流れがある。しかし、上述の通り教員が経験則だけを頼り多くの児童・生徒の特性を的確に把握する事は不可能であり、適切な個別指導は実現してこなかった。

STEPを教育現場に導入する事で教員は、自らと担当する児童・生徒の特性を的確に把握し、効果的なグループ分けや思考特性別の指導法の組み立てなど児童・生徒の個性に合わせた理想の授業づくりが可能となる。

3.2 5つの学習スタイル

プロフィールから得られる結果は、能力ではなくその児童・生徒の個性である。STEPでは個性に合わせた5つの学習スタイルを提唱している。学習スタイルは、1人が1つ持つものではなく、複数の学習スタイルを好む児童・生徒もいる。教員は5つのスタイルを意識し、使い分けることで適切な指導を可能とする。

1) レイドバック

机上で姿勢を正して学ぶのではなく、場所を選ばず、

自由なスタイル（例えば、音楽を聴きながら、歩いたり寝そべりながら）で、興味関心のあることに集中する。直感性や創造性に富み、画一的な授業より遠足や課外授業など変化にとんだ学習や頭と体を同時に使う学習を好む

2) オーガナイザー

学ぶ目的や達成すべき課題や期限を具体的に示される事や、論理的な思考やルールや秩序を守ることが好む。明確な指示を得ると目標に向かって一人でも黙々と学習を続ける傾向を持つ。

3) エクスペリエンシャル

論理的な文書表現より視覚的・聴覚的な抽象表現（グラフや図など画像表現や映像）の理解に長け、体験型学習（実験や遠足、課外授業など）や人との交流を好み、特に人から世話をしてもらうことを好む。

4) サイエンティスト

深い探究心を持ち、与えられた課題を自ら考え解決していく（実験や検証、課外授業なども）事を好む。また、テキパキとテンポ良く物事を処理する事も好む。

5) ソーシャル

みんなの前で質問に答え、注目を集めたり、褒められることを好み、人付き合いもよく友達の世話をしたり逆に自分が助けてもらったりすることを好む。

3.3 導入時の課題

STEPは2009年3月に12名の児童とその保護者を対象に国内で初開催し、2010年度には早稲田大学高等学院中等部の生徒127名のプロフィールを取得し、学校での指導法に関する共同研究を開始した。しかし、今後より多くの教育の場に導入するに当たり、下記の課題を共有しておきたい。

まず、プロフィールは児童・生徒の個性を客観的に表す指数ではあるが、能力を測る数字ではない。また、優位性を示さない特性に対し、本人が劣等感を感じたり、他の人からイジメなど誹謗中傷を受ける可能性も無いとは言えない。この為、データの取り扱いに注意するだけでなく、保護者に対してもSTEPを適切に説明し理解してもらう必要もある。

4. おわりに

当法人がSTEPを導入した最大の理由は、このプログラムが子ども達の自己肯定感を高めるのに有効な手段だと確認したからである。自己を肯定するには、まず人が全て違う事に気付き、その違いを互いに認め合い、最後に自分も他人と違う唯一の存在であることを自覚することが必要である。これは子どもだけでなく我々大人でも同じであり、ましてや教育者や指導者には不可欠なものである。本稿の提案に興味をもたれた方は、まずは自分のプロフィールを取り、その上でSTEPの国内での教育への活用を共に研究・実践するのに力を貸してもらいたい。

参考文献

- (1) ゲイル・ブラウニング：“エマージェネティクス”，ヴィレッジブックス（2008）。